

独立行政法人国立病院機構 埼玉病院 選考理由

取り組みテーマ：地域の leading hospital としての役割を満たす病院づくり

TQM 活動要素：方針管理

独立行政法人国立病院機構埼玉病院（以下、同組織と略す）は、「地域の leading hospital としての役割を満たす病院づくり」を目指して、地域に根ざした中核病院として現在 550 床で運営をしている。2010 年の新病院開院（350 床）、電子カルテ導入を機に、ハード面の刷新に留まる事なく、病院理念である「この地の人々の健康といのち、そして安心のこころを守る」をいつでも実行できる体制づくりとそれを実践する職員の意識の向上に着手した。QMS-H 研究会との出会いをきっかけに、病院経営に QMS 導入を決意した。2012 年に ISO 9001、2014 年に ISO22301・ISO50001 と QMS 構築に積極的に取り組んでいる。当初 PFC（プロセスフローチャート）の整備など日常管理主体の QMS を行っていたが、病床規模・病院機能の拡大、新型コロナウイルス感染症の終息めどがついたことなどから、病院の持続的発展を図るために方針管理の強化に 2021 年度より取り組んでいる。

第一の特徴は、方針管理を展開するにあたり TQM 推進室が方針管理シートを作成・配布するとともに、年度方針との整合性・目的に合った記入内容であるかを TQM 推進室で確認する仕組みである。また ISO 9001 審査結果など外部視点も取り入れながら振り返りを行い、方針管理ガイドを作成・配布するなどその定着化を推進している。

第二の特徴は、方針管理の仕組みの改善を継続的に、またその改善レベルの可視化に取り組んでいる。独自の 9 項目の 5 段階の評価指標を作成し、21 年より継続的に評価している。また項目別や組織別（診療部・部門）の詳細な分析を行い仕組みの改善につなげている。またその評価の信頼性を確認するために、AI での分析を行うなど先進的な取り組みを実施している。

第三の特徴は、2023 年度からサービス提供毎に PX（患者経験価値）を、職員に対しては EX（やりがい度）の測定を行っている。また職員同士でほめたたえる「埼玉エクセレント賞」や web を用いた改善案募集などの施策も行われている。2023 年度から「患者さん・仲間そして自分が喜べる仕事をしよう」を方針管理の目標として掲げており、これらを定量化する結果指標として PX・EX は有効であると考えている。

結果として、これらの方針管理活動の浸透により、各部署で改善活動が活性化され病院組織力・病院力の向上に繋がっている。それぞれの活動目標を達成し、病院全体の経営課題である入院患者数・ロボット手術・全身麻酔手術件数・救急受け入れ件数などの指標が増加し、結果として医業収支の改善につながっている。

以上により、同組織は、全社的な方針管理を軸とした改善活動推進体制や組織能力を備えつつあり、日本品質奨励賞 TQM 実践賞の授賞資格を備えていると判断する。